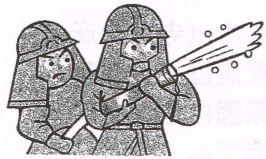


# 緑ヶ丘だより



発行 平成29年2月  
座間市緑ヶ丘地区自治会連合会

「安心安全街づくり」 227世帯

緑ヶ丘南自治会 会長 森 繁

「自主防災組織リーダー研修会  
で学んだこと」 124世帯

新緑ヶ丘自治会 会長 田野口勝彦

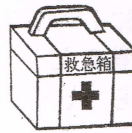
新規転入者(主に戸建て)の情報が得られれば自治会への勧誘に努めております。

自治会は人々の『絆』を築くために、さくら祭り、盆踊り、そうめん流し、市民レク、防災訓練等の催しを行っております。このような楽しみがあるから自治会に入りませんかと誘ってもなかなか入っていただけないのが現状です。

そのような状況で緑ヶ丘南自治会は『災害時の安否確認リスト』を作成致しました。これは災害時に班ごとに家族の安否を確認し次の行動をするための家族構成リストです。作成にあたり役員会で話し合い、日中の在宅状況とか緊急時の連絡先等の意見もありましたが個人情報管理ということで最小の情報『家族の男女年代別人数』に絞りました。

この『安否確認リストと防災備品』を用意していることを新規転入者に伝えることで、自治会加入促進に役立てております。

新規転入者にとって『もしもの時の備え』があるか否かは加入の大きな要素になると思います。これは安全安心街づくりの一步になると思います。



全国各地で近年発生している大規模な自然災害、30年以内に70%の確率で発生すると予測されている首都直下型地震。さらには、米軍基地を抱える座間市はテロ・武力攻撃の標的にされる危険もあり、県や周辺自治体も緊張感を持って、積極的な取組みを進めています。

当研修では、最優先に自分の身を守ることの大切さ(自助)、簡易救出訓練や搬送訓練など近隣の住民同士の協力(共助)の必要性を学び、避難所運営の図上訓練を実施してきました。

災害発生時の対応は、日頃から様々な災害が発生した時に取れる行動、例えば発災直後の行動や自宅や外出先での対策を考えておくことであり、日頃からの物の備え、室内・室外での備え、コミュニケーションという備えという小さな備えが、大きな助けともなるということです。また、大切なペットのことも考えた災害対策が必要とも言われています。研修会を通し、家族や地域で行う防災アクションの実践や避難所開設訓練の必要性を痛切に感じたところです。

これらの事業を通し、会員の皆様と一緒に地域防災コミュニティの醸成を図っていきたいと思います。

## 位置



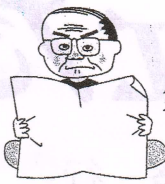
## 28年度役員

役職名	氏名	所属自治会	会員数
会長	森 繁	緑ヶ丘南	227
副会長	山地 久美	さつき	183
書記	大野 哲也	相武台緑ヶ丘	98
会計	田野口勝彦	新緑ヶ丘	124
代表理事	森 繁	緑ヶ丘南	
専任理事	小出 秀二	わかば	
会計監査	堀井 祐二	第一住宅相武台団地	171
会計監査	岸本 啓子	わかば	22
幹事(防災防犯)	田上 宗樹	緑ヶ丘中央	213
幹事(防災防犯)	蘇 子興	小田急相武台南	114
幹事(広報)	大塚 幸伸	緑ヶ丘六丁目	196
		合計	1,348



緑ヶ丘六丁目自治会 会長 大塚幸伸

第一住宅相武台団地自治会 会長 堀井祐二



幸田露伴の娘の幸田文の「季節のかたみ」(文庫)頁158で、21歳の大正大地震のとき近所に住むとび職と植木職のおかみさん二人に一生忘れられない教えをうけた。・・・

いつ、どこで、誰が誰に、なんの機縁でものを教え、教わるのでしょうか。二人のおかみさんから私は、”非常時のくらし心得”を教え施されたわけですが、それが七面倒な理屈でなくて、実地の水と火と塩の煮炊きのこと、つまり最もいのちと密着したこと、そして最も簡単なやりかたであったことが、身にしみるものだったと思います。身にしみて覚えた技術や手段は、技術手段にのみとどまらず、そこから伸びて心の養分になります。・・・

恥をかかされたのでは、ものは素直におぼえにくいけれども、誰にかかされたのでもなく、自分から感じた恥は、素直にそしていちばん深く、一生の覚えになるのではないのでしょうか。と書いている私の心に残る個所だ。



火災訓練・防災訓練あるいは震災訓練といういろいろ実施されるが参加率がいまいちである。現役の人には会社等で訓練をしている可能性があるが、退職者や主婦、高齢者が積極的に出でてくれることが必要大切なことだ。自分のいのちは自分で守るという意識で。

こういうものに参加した場合、毎月の班長会の各戸配布議事録に載せたり、別途回覧用に講義録のようなものを作り回覧して情報の共有をしている。

昔先生から聞いた言葉で、記憶していたものに、山本五十六の「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」があり、今回ネットで確認したところ「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」もありました。

天災は忘れた頃にやってくる(寺田寅彦の言)と云い伝えられている天災は、今や忘れる暇がない程やって来る。原因は地球上での日本の位置でしょうか?構造でしょうか?それとも人災(地球温暖化)によるものでしょうか?余りにも次から次へと襲ってくる。

平成28年を振り返ってみても、2月関東地方の地震、4月に入るや熊本の地震、大きな被害。余震は1500回を超すと云う。8、9月には台風、いずれも大型で強かった。10月阿蘇山噴火、11月には鳥取県で震度4の地震、300回に及ぶ余震。年末には茨城県で震度6弱の地震。台風は25個発生し、その内の6個が上陸して爪痕を残した。

5年前の東日本大地震(津波)、2年前の御嶽山の噴火も思い出した。

この様な現況から天災大国と云われるゆえんであろう。日本のどこで何が起こるか判らない。

被害にあわないように、心の準備、予想される被害への備えが必須の条件である。地震がきたら頭を被い命を守る、自助の精神。そして仲間と手をつなぎ力を合わせる、共助のきずな。それから公助を待つ。自助、共助、公助と行動する。

緑ヶ丘地区自連では毎年、防災訓練を行っている。今年度は予防策として①ガラス飛散防止フィルムの貼付法。②家具転倒防止金具の取付け法。③災害に遇った時の非常食の調理法。④三角巾の使い方。⑤簡易トイレの作製などの訓練だった。

万が一のために是非身につけておきたいものだ。



参考 消防訓練の内容 10月22日(土)

- ①消火器 ABC消火器がある。  
紙・木、油・ガソリン、電気火災。  
どこに置いてあるか、確認・チェックを。  
直射日光を避け、腐食しないところ。  
鉄が錆び底が割れてケガをすることもあ  
る。寿命5年を目安。  
能力1回のみ使用、噴射時間は約10秒。  
3から5mの距離に飛ばす。  
薬液が体にかかったら病院に行く。  
初期消火 自分の背丈、天井に火がいつた  
らむりをせず避難。  
使用方法 安全ピンを引く。ホースノズル  
をはずし火元に向ける。レバーをにぎり  
消火液を噴射する。火元に向けて手前  
から地面をはくようにして近づく。

- 3~5mほど近づいて消火する。  
身を守りながら。
- ②ホース格納庫 赤い箱 緑ヶ丘六丁目には  
3つある。消防署が管理している。  
ホース20mが2巻き。筒先ノズル1つ。  
開栓器(水を出すための鉄棒)1つ。  
丸蓋開栓器(消火栓マンホール開ける  
ボール)1つ。  
この4つで消火栓から消火作業をする。  
作業要員最低4名必要。  
ホース先端のノズル付近を2名で持つ。  
水を出せと知らせる人1名。消火栓を開  
いて水を出す人1名。  
ホースの接続カチャと入れ、引っ張って  
確認。接続部を足で踏んでカチャと入れる。  
簡単に入る。ホースにはオス・メスがある。

- 市内一斉防犯パトロールのチラシ12月4日  
警察からの最後のお祝い!! オレオレ  
ちょっと待って!!  
息子さんやお孫さんの変わる前の電話番号  
に電話して下さい!  
息子さんやお孫さんはこんなことを言っ  
てませんでしたか?  
①「携帯電話の番号が変わった!!」  
②「かばんをなくした!!」  
「借金の保証人になった!!」  
「会社の金を使い込んでしまった!!」  
③「銀行で色々聞かれたらリフォーム代、  
車を買う、葬式に使うと言って!!」  
④「俺は行けないから、他の者がお金を  
取りに行く!!」



緑ヶ丘中央自治会 会長 田上宗樹

緑ヶ丘中央自治会の会長になって10ヶ月が過ぎ、任期も残すところ2ヶ月となった。マンション暮らしのアラフォー独身サラリーマンにとって、自治会は縁のないものと思っていた。恥ずかしながら地域の自治会に属していることさえも知らなかったくらいである。それが、輪番でマンション管理組合の理事になり、くじ引きで自治会の担当(班長)を引き当てて今に至っている。

自治会の会長になったのは、もちろん成り手がいなかったことが一番であるが、「会長になれば、かみが沢桜祭りのステージイベントに参加できるかも?」といった仕様もない理由からだった。

自治会での集まりは土日のせいぜい月3~4日程度であるが、平日は仕事、土日は趣味のコーラスと休養という生活が出来上がっていた私には、当初は負担に感じることも多かった。

こんな私が会長となりスタートした28年度の自治会活動であるが、今のところ災害等大きい問題にも直面せず、市民レク、防災訓練、美化デー、どんと焼き、一斉防犯パトロールetcといったイベントも例年通りつつがなく?こなせており素直に安堵している。

特に10月の防災訓練と先日行った集会所周辺の草むしりでは、私が何もせずとも班長の方々には積極的に参加・協力して頂いた。おしゃべりをしながら親睦も深まり、今ではいい思い出だ。そして、様々なイベントを通じて、近隣に顔見知りが増え、緑ヶ丘に住む多くの方々と交流を持てたことは私にとってなよりの財産となった。

来年度にどういった方々が班長になられるかわからないが、気負わずに各自負担にならないレベルで自治会活動を楽しんでもらえればと思う。こういった親睦や交流が日常があれば、いざ災害となったときお互い助け合えるのではないのでしょうか?

もう一度、変わる前の電話番号に確認してください!

それはサギです!! 必ず警察や家族に相談してください。

神奈川県警察/神奈川県犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会/神奈川県



さつき自治会 会長 山地久美

日々深夜まで仕事に追われる生活の中、自治会役員を引き受ける事など皆無に等しいと他人事でおりました。そのような中、とうとう役員をお断り出来ない状況となり、役員初にて不本意ながら自治会長となりました。

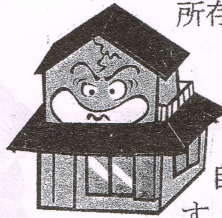
自治会に対する無知さのあまり不安のみでスタートした昨年の春が思い出されます。しかしながら地区連会長、地域の役員さん、班長さんの力強いサポートの元、何とか進行する事が出来ました。皆様には、ただただ感謝の言葉しか御座いません。実に多くの学びが有り、また無事な日常を送れるのも、地域の方々の気遣いに依るものだったのだと改めて感じた次第です。恥ずかしながら、役員経験無くしては感謝の気持ちは持てなかった事と思います。

無能な会長では御座いましたが、地域の方々と交流、密着する事で、イザという機に頼りになる自治会員の方々の温かさを深く感じる日々となり、今では任期後も時間の許す限り、自治会に協力して行こうと思っております。自治会員一人一人の思いやりの意識向上にて、地域基盤が固まり有事の際も、安心出来る地域作りを切に願い、人任せではなく自身も一助となれますよう地域に関わってゆく所存です。

「空き家問題」

98世帯

相武台緑ヶ丘自治会 会長 大野哲也



自治会役員になってもうすぐ1年になります。面倒なこともありましたが、なんとかやってまいりました。

最近のうちの自治会では、「空き家」が問題となっています。

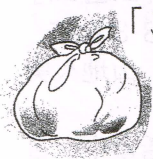
- ・草木が道まで張り出してくる。
- ・雨戸が外れて、風が吹くとうるさい。
- ・果ては、屋根や壁が崩れて危ない。

などなど隣り近所に迷惑がかかっています。空き家が多いと、治安に対しても不安です。この前は、引っ越された後、お隣さんも新しい連絡先がわからないといった状況になり、なかなか連絡がとれず、苦勞しました。

自治会でなんとかできる問題ではないのですが、放っておくこともできず、個々のケースごとに対処も変わるので、ちょっと悩ましいところですよ。

有効な解決手段はありませんが、せめて、普段から隣り近所、挨拶をすることで新しい引っ越し先に連絡が取れるくらいにはしたいと思っています。





## 「ごみ処理場の視察」

22世帯

わかば自治会 会長 岸本啓子

昨年9月、「ごみ処理場の視察」に参加し、高座清掃施設（可燃ごみの焼却施設）、第2リサイクルセンター（プラスチック製容器包装）、リサイクルセンター（資源物の選別）、リサイクルプラザ（粗大ごみの再生販売）の4施設を巡りました。

座間市の家庭から1年間に出るごみの量は3万トンで、そのうち7千トンもが資源物だそうです。その資源物を売却すると何と1億3千万円の収益になるそうです。更に焼却費用が掛からないとのことでした。また、生ごみの半分は水分と聞き驚きました。

可燃ごみ以外の私達が分別して出したごみは、各処理場で更に選別されプレスされて回収工場へと運ばれて行きます。

プラスチックに関しては人の手によって異物を取り除く作業があり、正しい分別の必要性を強く感じました。

私達が少し意識を変えることで、更に「ごみ」が減り、「資源」に変わることでしょう。また、リサイクルで「資源」を有効利用することや「ごみ」を減らすことは、地球環境保全においても大きな意義のあることではないでしょうか。是非多くの方に見学をして頂きたいと思いました。



## 「健康長寿を目指して」

22世帯

わかば自治会 専任理事 小出秀二

一昨年微減した座間市の人口減少に歯止めがかかったのか、昨年は389名増加して129千人台を回復しました。市内の人口構成は、65歳以上の高齢者が20歳未満の若年層を上回る状況が続いております。

最近日本老人学会では、65歳以上とされる高齢者の定義を75歳以上に引き上げるべきと提言しています。現在の高齢者は10~20年前に比べ5~10歳は若返っていると言われてい

ます。定義の変更はさておき、高齢化率世界一の日本としては、長生きする高齢者がいかにして健康を保ち長寿を全うするかが最も重要な課題であります。

健康を維持するためには、自分自身の体のことですから一人一人が意識して億劫がらずに体を動かすことが一番大切だと言われてお

⇒⇒⇒右に続く⇒⇒⇒



## 「登校の風景」

114世帯

小田急相武台南自治会 会員 中野九夢

お葬式みたい。それが、我が子が小学校に入学して初めて見た、登校時の子供たちの第一印象でした。旗当番などの付き添い時に観察していると、どの方面からくる登校班の子供たちも同様で、小さく会釈してくれるのはまだ良いほうで、声掛けしてくださっている民生委員さんやボランティアの方への挨拶も見られないといった具合でした。

学校の先生に聞いてみたところ、挨拶はするように指導しているが、一列隊形で、また会話はせずに登校するように決まっているとの説明を受けました。他の保護者からは、地域の住人から「早朝からおしゃべりがうるさい」と、登校する児童についての苦情が、学校や市に寄せられた経緯があるとのこと聞き、合点がいきました。静かに登校するよう指導しているうちに、挨拶もしない暗い登校風景ができあがったのでしょうか。下校時はずっと楽しそうに挨拶もしてくれる明るい子たちなの!

子供がうるさいのは確かです。でもそれが、「子供」というものだとは私は思うのです。一部のクレームに委縮して、子供の口を塞いでしまうことは簡単ですが、学校や周りの大人は、「迷惑をかけていることについては申し訳ない、ただ、それが子供なのです、大目に見てもらえませんか」と盾になって子供を守る必要があるのではないのでしょうか。その一方で、子供たちに対しても他の人の迷惑になることは慎むよう、忍耐強く教えていくのが「躰」であり、大人に対して課せられた義務だと私は思うのです。

子供たちが子供らしく、会話したり、地域の人と元気に挨拶を交わしながら学校に通うことができる環境づくりができるよう、朝の子供たちへの声掛けや子供会・登校班会などでの保護者への提案など、私も微力ではありますが、努めて参る所存です。どうぞ、地域の皆様も温かい目で見守っていただき、「挨拶できる地域づくり、子供育て」に、ご賛同・ご協力頂ければ幸いです。

左下から続く

私も加入する当地区緑寿会のメンバーには90歳になられても、グランドゴルフやカローリングを楽しむ元気な先輩達がおられます。

私も良き先輩達を見習い、一度きりのこの人生、こまめに体を動かし健康長寿を目指したいと願っております。